慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	竹田龍児先生を偲ぶ
Sub Title	In memory of Professor Ryuji Takeda
Author	江坂, 輝彌(Esaka, Teruya)
Publisher	三田史学会
Publication year	1995
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.64, No.3/4 (1995. 4) ,p.131(385)- 133(387)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19950400-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

竹田龍児先生を偲ぶ

江坂輝彌

私は一九四五年一二月　上海から復員して、一月から大学に復学した。当時は同じように内地から復員した諸兄が九月末か一〇月から再開された講義を受講されていた。東洋史にも伊藤清司、和田博徳、菊地甫、真壁逸夫、永井哲明などが在籍し、橋本増吉先生、松本信広先生とともに、竹田龍児先生も東洋史特講の講義を担当、「唐代の社会」についての講義であったかと記憶する。

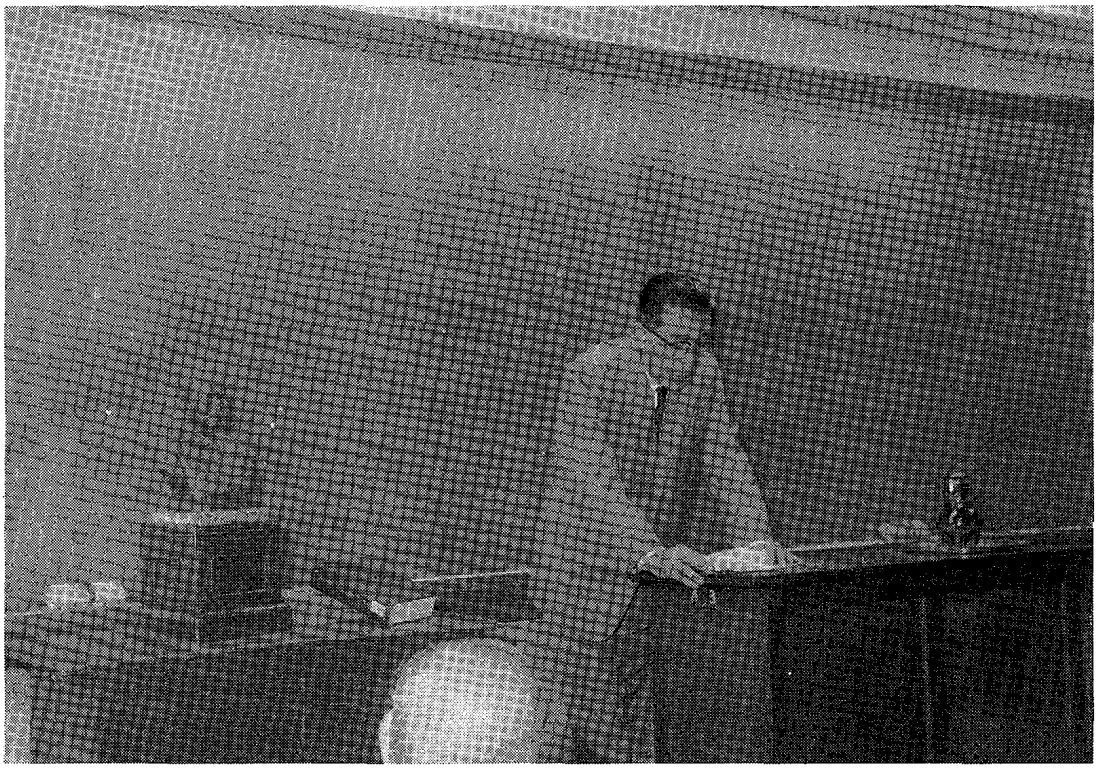
それ以来、先生とは五〇年近い間、御交誼をお願いし、種々と御指導もいただいたのであった。

先生は旅行がお好きで、東洋史専攻生の旅行にはよく参加され、伊豆の旅行など、先生のスナップを何枚か撮っており、それらも本稿で御紹介したいと思ったが、即座に探し出すことができなかった。

ここに二枚のスナップを見つけ出したので御紹介する。一つは一九六二年五月一九日、土曜日、橋本増吉先生の七回忌、記念講演会を三田史学会で開催、先生が橋本先生について語られた時のものであり、もう一つは、一九七三年三月一五日、聖坂（ひじりざか）を登った左側にある三田東急アパートのレストランで先生の定年退職送別会を東洋史専攻で開催した時のスナップである。この二つの寫眞を見くらべ、一〇年余経過したにもかかわらず、先生の頭髪、御容貌に全く変化のないことに気付かれるであろう。

先生は細身で瀟洒な身のこなしの方で、いつも若々しく感じられる方であり、最近になってようやく白髪がいくらか目立つようになられたかなと思う程である。

また先生は野球も実際にやられるのが好きで、多摩市の蓮光寺で縄文時代中期の竪穴住居跡の発掘調査を見学に来られた先生が、清水潤三、河北展生君など野球好き



1962年５月19日(土)三田南校舎で，
橋本増吉先生七回忌記念講演会（江坂撮影）

1973年３月15日，竹田龍先生定年退職送別会
三田東急アパートレストランにて（江坂撮影）

の面々にうながされて、畑地で野球を始め、百姓さん達にどなられたことなど、昨日のように思い出されるのである。

三番目にあげたのは、下北半島の霊場、恐山を訪れた際の記念写真であり、一九六七年八月二九日の撮影である。後列右から、塾経済学部卒、当時むつ市助役であった浜谷一梅氏、竹田先生、江坂、そして現在塾環境情報学部付属環境情報研究所員の岡本孝之氏である。

また先生は晩年、ベトナム史に興味を持たれ、研究を開始されていた。私も近年ベトナムにも出かけ、ハノイからホーチンミン市まで遺跡と遺物の見学旅行などする機会ができ、先生がもし御健在なら、これから何度か御案内もできたのにと、一〇年遅かったことが悔れるのである。

温厚篤実、後輩達の良き兄でもあり、相談相手でもあった先生にはもう少し健在ですごされたらと思う人々はかなり多いのではなかろうか。

先生及び先立たれた令夫人の御冥福を祈り擱筆する。

1967年８月　青森県恐山にて